

はじめに

本書は、雑誌「レジデントノート」の2011年1月号から2012年6月号までの1年半に連載させていただいた「グラム染色で迫る！感染症診断」に加筆修正を行い単行本化したものです。

Part1 基本編で触れたように、感染症診療では患者さんの状態を把握し的確な診断をつけることさえできれば、おのずと選択すべき抗菌薬が決まります。書物を開けば、「〇〇菌に対する第一選択薬は××」、「腎障害があるときには△△に減量して投与」などの情報はすぐに得ることができます。しかし、具体的な感染症の診断名や起炎菌がわからなければ、どんなに書物をあさっても、適切な治療にたどり着くことはできません。そのため、連載時から「感染症診断」という言葉にこだわり、また的確な診断を得るために必要な「検体の採取」や「グラム染色の手技やコツ」について十分なページを割きました。ぜひ、この点を意識して本書を読み進めていただければ幸いです。

なお、本書ではさまざまな画像（身体所見、検体、グラム染色など）が掲載されています。そのほとんどは筆者自身が直接撮影したのですが、一部の症例では同じ診療科のスタッフに画像を提供していただいたり、間接的に関わった他科の症例では主治医の協力を得たりして掲載・執筆しています。本書が、決して筆者個人の力で生まれたものではなく、恵まれた環境（指導や協力をいただいたスタッフの存在、綺麗な写真の撮影が可能な顕微鏡の設置など）の賜物であることは強調しておきたいと思います。

本書の出版に際し、藤田次郎教授をはじめ、琉球大学大学院医学研究科 感染症・呼吸器・消化器内科学（第一内科）の先生方、お世話になった関連病院の先生方、岡慎一先生をはじめとした国立国際医療研究センター病院 エイズ治療・研究開発センターのスタッフの皆様、それぞれの病院でご助言、ご指導をいただいた細菌検査室のスタッフの皆様に感謝申し上げます。また、筆者の執筆活動に理解を示し、いろいろな面で協力してもらった妻と2人の娘にも感謝したいと思います。

最後に、レジデントノートの連載時からご尽力をいただきました羊土社の皆様、とりわけ編集部の田中桃子様に深く御礼申し上げます。

2013年5月

琉球大学大学院医学研究科 感染症・呼吸器・消化器内科学（第一内科）
田里大輔